

観察フォーム

施設名: [] 期間番号*: [] セッション番号*: []
部局: [] 日付: (yy/mm/dd) [] / [] / [] 観察者: []
病棟: [] 開始/終了時間: (hh:mm) [] : [] / [] : [] ページ N°: []
科: [] セッション時間: (mm) [] 住所**: []

Table with 12 columns: 専門職種コード, 人数, 瞬間, 適応, 手指衛生, 瞬間, 適応, 手指衛生, 瞬間, 適応, 手指衛生, 瞬間, 適応, 手指衛生. Rows 1-8.

* データ管理者によって記入される。
** 「適切」、現場の必要性と規則に従い、もし適切なら使用される。

一般的な推奨

(「手指衛生テクニカル・リファレンス・マニュアル」を参照)

1. 公平な直接観察の関連で、観察者は適当な時に医療従事者と患者に自己紹介し、仕事内容を説明し、すぐに非公式なフィードバックを提案します。
2. 以下の主要な4つの専門職の1つに属している医療従事者は(下を参照)、患者に医療行為を行うときに観察されます。
3. 必要なら直ちに訂正されるために、認知され観察されたデータは鉛筆で記録されます。
4. フォームのトップ(ヘッダー)は、データ収集を開始する前に完成させておきます(終了時間とセッション継続時間は除く)。
5. セッションは、わずか20分程度とする(観察活動に従って±10分)；終了時間とセッション継続時間は観察セッションの最後に記載される。
6. もし手指衛生の機会が許せば、観察者は同時に3名までの医療従事者を観察できる。
7. 手指衛生行為を記録する枠の各列は、特定の専門的カテゴリーのために設けられています。従って、非常に大勢の医療従事者は、1つのセッションの間、それぞれのカテゴリーのための列の中に連続的に含まれるかもしれませんが、あるいは、それぞれの列は、専門的カテゴリーが適応されるべき1人の医療従事者の専用であるかもしれません。
8. あなたが手指衛生の適応を見つけ次第、適切な列の機会を考慮し、あなたが見つけた適応に従って四角にチェックを入れます。そして、当てはまる全ての適応と、観察されるかし損なった関連する手指衛生行動の全ての項目に記入します。
9. それぞれの機会は、各列の一つのラインを参照します；各ラインはそれぞれ独立しています。
10. 四角(一つの機会に対しいくつかか当てはまるかもしれません)か、丸(1つの瞬間に対して1つの項目しか当てはまりません)の項目をチェックします。
11. いくつかの適応が一つの瞬間に当てはまるとき、それぞれが四角をチェックすることで記録されます。
12. 実行されたあるいはし損なった行為は、常に機会の関連の中で登録されなければなりません。
13. 手袋使用は、医療従事者が手袋を使っていて手指衛生行為をし損なったときのみ記録されます。

項目の短い説明

施設名:	現場での命名法に従って記入	
部局:	現場での命名法に従って記入	
病棟:	現場での命名法に従って記入	
科:	以下の標準的命名法に従って記入:	
	内科 (皮膚科、神経科、血液科、腫瘍科を含む)	外科 (脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科等を含む)
	混合 (内科と外科) (婦人科を含む)	産科 (関連した外科を含む)
	小児科 (関連した外科を含む)	集中治療と蘇生
	救急部	長期ケアとリハビリテーション
	外来治療 (関連した外科を含む)	その他 (特定する)
期間 N°:	1) 介入前-/2) 介入後；そして組織の数え方に従う。	
日付:	年(yy) / 月(mm) / 日(dd)	
開始/終了時間:	時(hh) / 分(mm)	
セッション時間:	開始と終了の差で、結果として観察の時間 (分)。	
セッション N°:	分析のためのデータ入力時に起因する	
観察者:	観察者のイニシャル(観察者は、データ収集と、分析のためのフォームを提出する前にそれらの信頼性をチェックする責任がある)	
ページ N°:	1つのセッションで1つ以上のフォームが使用されたときのみ記入する。	
専門職種:	以下の分類に従う:	
	1. 看護師/助産師	1.1 看護師、1.2 助産師、1.3 学生
	2. 補助者	
	3. 医師	3.1 内科医、3.2 外科医、3.3 麻酔科医/蘇生医/救急医、3.4 小児科医、3.5 婦人科医、3.6 コンサルタント医、3.7 医学生
	4. その他の医療従事者	4.1 療法士(理学療法士、作業療法士、聴覚療法士)、4.2 技師(放射線技師、心臓技師、手術室技師、検査技師等)、4.3 その他(栄養士、歯科医、ソーシャルワーカー、その他の患者ケアに関わる医療関連専門職)、4.4 学生
人数:	観察現場に存在しあなたが適応と認識した同じ専門カテゴリー(同じコード)に属する観察された医療職員の人数。	
機会:	少なくとも1つの適応として定義される	
適応:	手指衛生行為の動機となる理由(複数)；一つの瞬間で当てはまる全ての適応が記録されなければならない	
	患者前: 患者に触れる前	曝露後: 体液曝露リスクの後
	無菌前: 清潔/無菌操作の前	患者後: 患者に触れた後
		環境後: 患者環境に触れた後
手指衛生(行為):	手指衛生適応(複数)に対応；手指擦式法あるいは手洗いによる肯定的行為か、どちらも行わない否定的行為があります。	
	HR: 擦式アルコール製剤による手指擦式法での手指衛生行為	行わず: 手指衛生行為を行わない
	HW: 石けんと流水による手洗いでの手指衛生行為	

観察フォーム — 基本的順守率計算

セッション N°	施設: 専門職種			期間: 専門職種			状況: 専門職種			合計/セッション					
	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)			
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
合計															
計算	行為 (n) =			行為 (n) =			行為 (n) =			行為 (n) =			行為 (n) =		
	適応 (n) =			適応(n) =			適応(n) =			適応(n) =			適応(n) =		
順守															

$$\text{順守 (\%)} = \frac{\text{行為}}{\text{適応}} \times 100$$

使用方法

1. 選択された設定に照らして、関連したデータを分析し報告するための範囲を説明しながら、設定を定義する。
2. 観察フォームのデータをチェックする。適応に関係しない手指衛生は、考慮に入れられるべきでなく、逆も同様に。
3. 同じ列に、セッション番号と関係した観察データを記録する。セッション番号のこの特性は、データが順守計算に数えられたという事実を保証します。
4. 専門職カテゴリとセッション(vertical)当たりの結果：
 - 4.1 専門職カテゴリ当たりのケース報告フォームに記録された適応を数え上げる：計算フォームの対応するセルに合計を記録する。
 - 4.2 手洗い(HW)と手指擦式法(HR)の違いを明確にし、上記の適応の合計に関係した肯定的手指衛生行為を数え上げる；計算フォームの対応するセルに合計を記録する。
 - 4.3 同じようにそれぞれのセッションについて行う（データ記録フォーム）。
 - 4.4 それぞれの専門職カテゴリ当たりの全ての合計を加算して、順守率を計算する（百分率で）。
5. それぞれの列の結果の加算で、一番右のコラムの最後が全体的な順守率となります。

観察フォーム — 任意の計算フォーム

(適応に関する手指衛生順守)

セッション 番号	施設名:			期間:			設定:			患者に触れる前			清潔/無菌操作の前			体液被曝リスクの後			患者に触れた後			患者環境に触れた後		
	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)	適応 (n)	HW (n)	HR (n)			
1																								
2																								
3																								
4																								
5																								
6																								
7																								
8																								
9																								
10																								
11																								
12																								
13																								
14																								
15																								
16																								
17																								
18																								
19																								
20																								
合計																								
計算	行為 (n) =			行為(n) =			行為(n) =			行為(n) =			行為(n) =											
	適応 1 (n) =			適応 2 (n) =			適応 3 (n) =			適応 4 (n) =			適応 5 (n) =											
割合 行為/適応*																								

使用方法

1. 選択された設定に照らして、関連したデータを分析し報告するための範囲を説明しながら、設定を定義する。
2. 観察フォームのデータをチェックする。適応に関係しない手指衛生は、考慮に入れられるべきでなく、逆も同様に。
3. もしいくつかの適応が同じ機会に発生するなら、それぞれの一つ一つは関係する行為と同様に別々に考慮されるべきです。
4. 同じ列に、セッション番号と関係した観察データを記録する。セッション番号のこの特性は、データが順守計算に数えられたという事実を保証します。
5. 適応とセッション(vertical)当たりの結果：
 - 5.1 観測フォームの適応当たりの適応を数え上げる；計算フォームの対応するセルに合計を記録する。
 - 5.2 手洗い(HW)と手指擦式法(HR)の違いを明確にし、上記の適応の合計に関係した肯定的手指衛生行為を数え上げる；計算フォームの対応するセルに合計を記録する。
 - 5.3 同じようにそれぞれのセッションについて行う（観察フォーム）。
 - 5.4 それぞれの適応当たりの全ての合計を加算して、率を計算する（百分率で）。

*メモ: 計算の分母は機会の代わりに適応であるので、この計算は正確には順守結果ではありません。行為は、それぞれの適応に従って人為的に過大評価されます。しかし、結果は医療従事者のそれぞれの適応のタイプに対する行為の総体的な考え方を示します。